

高田 本山 だより

平成最後の本山だよりをお届けいたします。

東日本大震災から早八年。その後も各地で自然災害が発生しています。一瞬一瞬をお念仏と共に生きる。そんな生き方を考えてみませんか。

昨年の台風で被害を受けた国宝御影堂・如来堂の屋根の修理がようやく始まります



五月二十一日から二十三日 圓遵上人二百年忌

第十八世圓遵上人



圓遵上人のご遺徳

圓遵上人（一七四八、
一八一九）は、如来堂と御

影堂が完成した後の諸伽藍を整備するとともに教学振興に尽力され、今日に至る高田本山の礎を築かれました。

延享三年（一七四六）、圓遵上人は有栖川宮音仁親王の第一子として誕生され



ました。十七世圓猷上人の法嗣圓超上人が二十二歳で寂されたことにより専修寺に入室され、圓猷上人の御裏方紫雲光院様の慈育を受け、宝暦八年（一七五八）十一歳で専修寺第十八世の法灯を継職されました。御自ら「宗風」の基軸と

なる『高田沂源論』を著されるところにも、その要旨を『慚愧御書』において「本願の深意」として広く諭されました。漢文体の『高田三祖伝』においては、親鸞聖人、真佛上人、顕智上人の伝記を通して三祖のご遺徳を述べられました。その他にも解行に関するたぐさんの書物を上梓され、修正会拝読の『繙の御書』をはじめ多くの御書を發布し、御蔵版「浄土三部経」の開版も推進されました。さらに寛政八年（一七九六）には、高田学苑（高田中学、高田高等学校）の前身となる勸学堂を造営され、学山高田は隆盛を極めました。伽藍の建立、再建にも勤しまれ、天明三年（一七八三）の大火に遭いながらも茶所、釘貫門、御廟拝堂、対面所、両堂を結

ぶ通天橋等々の普請に着手され、私たちが今日に仰ぐことのできる高田本山の諸建築を造立されました。

高田教学の興隆や伽藍の復興に力を注がれる中、圓遵上人は文化面においてもご功績豊かでした。文辞を愛し、漢詩や歌道に秀でられ、謡曲「柳島」をご自作されました。圓猷上人が伝来した茶道「宗旦古流」についても安永八年（一七七九）以降、三十九年間二百四十席にもわたる「安楽庵」における茶会の記録を認めるほど極められました。

江戸時代中期に高田本山の「ハード面」と「ソフト面」の拡充に勤俟力行された圓遵上人は、文政二年（一八一九）七十四歳で往生の素懷を遂げられました。（安藤章仁）

WEB VERSION

WEB VERSION

五月二十一日から二十三日 堯熙上人百年忌

第二十一世 堯熙上人



堯熙上人のご生涯

堯熙上人は、弘化元年(西

暦一八四四)十二月二十七

日、近衛忠熙公このえただひろの第七子と

して京都でお生まれにな

りました。専修寺第二十世

圓禪上人えんぜんの熱望により、法

嗣として専修寺にお迎え

することになり、嘉永六年

(二八五三)、有栖川宮ありすがわのみや幟仁たかひと

親王の御子となり、翌嘉永

改めました。御歳十八歳。

元治から慶応にかけ

て起こった安心惑乱に、

慶応二年(一八六六)

御書を発し決着されま

した。(この御書を慶応

宝訓、また御決判御書

ともいう)

明治維新により、本

山の制度も大きく変わ

りました。他にも神仏

判然令はいつくしやくによる廃仏毀釈、

神道国教化政策など、

内外共に多難な時代で

したが、その対策に尽

力されました。

明治五年(一八七二)

九月、家号を常磐井とぎわいと

し、法名を堯熙と改め

られました。この年は、

他にも多くの出来事が

ありました。三月には

真宗を公称することが

は各宗派に管長職が設け

られ、上人は専修寺管長に

就任されました。その後、

一宗一管長制が設けられ、

十月には真宗の管長にも

就任されました。

堯熙上人は、身を惜しむ

ことなく各地を巡られま

した。特に明治二十四年

(二八九二)十月、濃尾大

地震の折には、いち早く震

災地に自ら赴かれ、親しく

慰問、激励されました。ま

た明治四十二年(一九〇九)

九月、北海道別院の御遠忌

法要をはじめ北海道各地

を巡教され、利尻島にも足

を運ばれました。

明治四十五年(一九一二)

四月、宗祖六百五十回大遠

忌法要を勤められました。

翌大正二年(一九一三)

隠退して、法主ならびに住

職を譲られました。

大正八年(一九一九)五

月二十三日七十六歳にて、

遷化されました。金剛心院

殿と申し上げます。雅号は

墨山。別号に桐陰居、敬辰

居、半痴、有慶堂、老鶴が

あります。

堯熙上人は、書に堪能で、

和歌にも親しまれました。

またお茶も嗜たしなまれました。

多くの墨跡や、上人ゆかり

の茶器が各所に伝わって

います。

(佐波真教)

WEB VERSION

こんな行事がありました

勢で本山を訪ねてくれました。



除夜の鐘

十二月三十一日

除夜の鐘

平成最後の除夜の鐘が一身田寺内町に響きわたりました。本山の鐘は百八撞ではなく千人近く集まった皆さんについていただけるように時間制です。

一月九日

上富良野町から訪問

本山のある津市と友好姉妹都市である北海道 upper 富良野町の子どもたちが大



上富良野のこどもたち

一月九日～十六日

お七夜・報恩講

親鸞聖人の七五七年忌となる報恩講が本年も無事に厳修され、今年も国宝となった両御堂にたくさんのお参りがありました。

一月十一日 責任役員会

お七夜中の責任役員会には各末寺の役員が集まり御影堂がいっぱいになりました。



お七夜こども大会



宝物館特別展観・解説

その他、行事も多数お七夜期間中にあり参詣者で賑わいました。



お七夜責任役員会



年賀式

旧正月に年賀式が執り行われ本山を支える各講社が出席しました。

二月一日 年賀式



通夜講



法主褒賞

WEB VERSION

WEB VERSION



汗を流して清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございます。(敬称略・奉仕日順)

十二月 圓照寺

一月・二月 厳寒期のため清掃奉仕はお休みです。

本山の清掃奉仕で汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わさり山内が護持されています。お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお願いします。

御影堂・如来堂の国宝指定に伴う参詣者の増加に対応する為に進納所の移転をはじめ、業務の見直しを図っております。至らない点もございますが、気持ちよくお参りいただく環境を整備してまいりますのでよろしく願います。

これまでありました進納所の場所は茶所を拡大し、ゆつくりとくつろげるようになりました。

進納所は上の写真の場所に移り「院号法名下附・帰敬式・経典・参拝記念印(朱印)」のお取り扱いになります。

他のお取り扱いが総合案内所に集約されますので、ご参詣の折には、まず総合案内所をお尋ねください。

これまで個別申し込みが必要でした参拝案内も定時のご案内を予定しておりますので詳しくは本山ホームページをご覧ください。

2019年度会員募集開始 詳しくは宗務院・蓮の会係まで

蓮の会

蓮の種を育て、育て方講習会

種分け (二日連続)

二日連続の講習会を二日連続で実施いたします。お申し込みは、宗務院庶務部までお願いします。

高田山 蓮の会 特典

国指定重要文化財御影堂・如来堂

「お抹茶の会」ご招待

お抹茶の会には、二日連続で実施いたします。高田山の歴史ある御影堂・如来堂も、同様に開催いたします。

蓮の会として

お好きな蓮を育てられます

高田山は、蓮の会として、二日連続で、お抹茶の会を開催いたします。

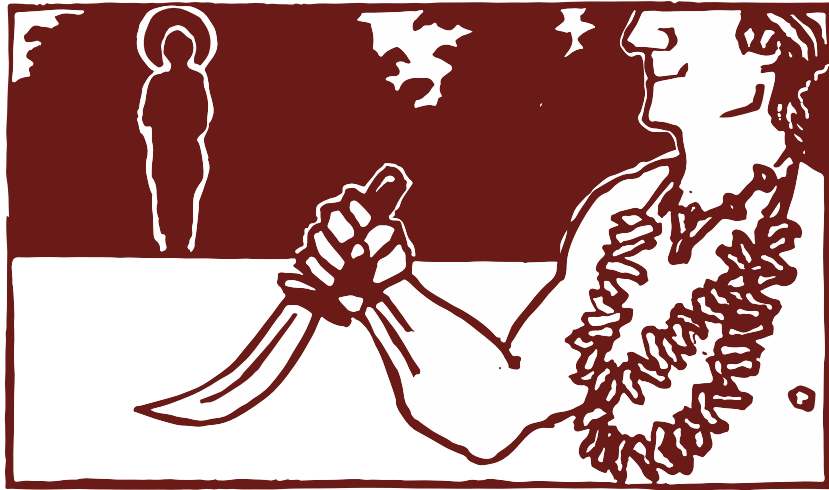
※一応、お抹茶の会は、お抹茶の会として開催いたします。

WEB VERSION

WEB VERSION

「アングリマール」

釈尊シリーズ ⑭



第十六話の素材になるなど、特に有名で感動的な佛弟子伝であります。

『佛説鶩掘摩經』によると、ア

ングリマールは昔のインドのコーサラ国の、あるバラモンの弟子でありました。

あるとき師の妻に誘惑され、それを拒絶したために逆恨みされ、師に全く逆のことである嘘を告げ口されまし

に通して首飾り（マール）のようにするのだ。」と彼に修行の完成を命令します。

彼は師の教えにそむくことは出来ない、次の朝から昼までに出あう人々を次々と殺して指を切り取ります。最後の一本が足らず、自分の母を殺して指の数を満たそうとしました。そこに釈尊が現れます。

アングリマールが剣を振り上げると、釈尊の姿が遠ざかります。彼が「沙門、しばらく止まれ。」と言うと、釈尊は「わたしは、昔から止まっていたままであり、ただお前のみが止まっていない。」と告げます。

つまり釈尊は覚り、その心は静止しているのに対して、アングリマールの心は迷い、動揺しているのです。

驚いている彼に、釈尊は「お前は悪い考えに踊らされて人

を殺した。悪い夢をすてて、生死をこえたわたしの教えを聞きなさい」との内容の言葉で諭すと、彼は悪夢から醒めたように、我に返って釈尊の足下に平伏し、自分の過ちを悔います。

釈尊は彼を祇園精舎に連れて帰ります。こうしてアングリマールは釈尊の弟子となります。

国王バセーナジは兵を率いて、殺人者を取り押さえんために現場に駆けつけましたが、もう釈尊の弟子になった後でありました。王は祇園精舎で釈尊に彼のことを尋ねます。釈尊が弟子の中に坐っている彼を指すと、王は納得して、釈尊に礼をなして帰っていききました。

アングリマールは、釈尊のご教化に遇い、自らの悪業を反省し、悪業の報いを耐え忍ぶ中で、最高の佛弟子の境

地に達したと伝えられています。

この伝記は、さまざまな要因や条件が重なれば、人間とはどんな行為もするものだということをもお教えくださっています。

釈尊は、その人間を救うために、慈しみと、強い信頼の心をもって、説法してゆかれたのであります。

（教学院第三部会）

WEB VERSION

釈尊にはアングリマール（訳して指鬘などといわれる）という佛弟子がいまして。その伝記は所伝様々で一定していませんが、『今昔物語集』の巻一・

た。師は激怒して、残酷な方法で復讐しようと「利い剣で、夜が明けたら、百人殺せ。一人殺すごとに一本の指（アングリ）を切り取り、それを糸

親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第11回 手取川渡の名号

萬法寺跡



越前から更に北上し加賀に差し掛かった親鸞聖人一行の行く手に川が横たわっています。

この手取川が氾濫した為に逗留したと言われているのが泰澄大師建立の萬福寺です。この時の僧、賢信房が聖人の化導に感銘し浄土門に帰依し寺号も萬法寺と改めます。残念ながらこの場所は今は田んぼの真ん中でお寺があった名残はこの石碑のみになっています。また、この手取川の渡し船

の船頭の家にも泊まれたと言われており、出立にいたりやはり川が荒れていて船を出すことができませんでした。

この時、聖人が六字の名号を書いて川に投げ入れると川が静まり無事に渡ることができたそうです。この時の名号を奉納したのが

仏屋敷で、側には聖人腰掛石や清水の池があります。

また、この集落にある米光日吉神社では、聖人が参拝し縁起一巻を残したとい



仏屋敷

うことです。

美川駅から萬法寺跡はおよそ1^{キロ}白山市手取町に、仏屋敷・日吉神社は同駅からおよそ2・4^{キロ}白山市米光にあります。(山川蓮生)

●行事案内

葬祭上人の漢字は法会では葬祭上人と表記しております

三月十五日～二十四日

四月十一日

大涅槃図公開(如来堂)

戦没者追弔法会

絵解きは二十一日まで

四月二十一日

三月十八日～二十四日

はなまつり

讀佛会

四月二十九日

三月二十三日～四月七日

興学布教大会

写生大会

五月六日～八日

三月二十六日～二十八日

堯禎上人御正當

中学生教化合宿

五月二十一日

四月六日～十一日

親鸞聖人降誕会

千部法会

五月二十一日～二十三日

四月八日

圓遵上人二百年忌

釈迦三尊法会(山門)

堯熙上人百年忌

四月九日・十日

五月三十一日

十万人講法会

第68回檀信徒研修会



米光日吉神社

WEB VERSION

WEB VERSION

ART MIX JAPAN

4月13日・14日

新潟で開催される
アートミックスジャパンに
おいて高田派声明公演が開催
されます。14日12時15分から
詳しくは <http://artmixjapan.com/>

寺院名

2023年 宗祖親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年 慶讃法会 記念行事

宗祖親鸞聖人への讃歌
凱旋公演

高田本山 専修寺の
しょう
みょう
声明

5月21日 親鸞聖人降誕会
5月22日 第18世 圓通上人 二百年忌
5月23日 第21世 興臨上人 百年忌

2019年5月21日(火)

18:00 開演〈公演時間約1時間〉 入場無料 高田本山御影堂にて

応募方法 <往復はがきでご応募ください>

応募締切 2019年5月14日(火)必着

【記入事項】

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④連絡先
⑤年齢 ⑥人数

宛先: 〒514-0114

三重県津市一身田町2819番地
高田本山専修寺 声明公演事務局

- ・ご家族やグループでご応募の場合は代表者の氏名・連絡先をご記入いただき、必ず人数を明記して下さい
- ・返信用の宛先は必ずご記入ください
- ・返信用の裏面には何も記入しないでください(整理券の印刷面になります)
- ・お電話でのご応募は受け付けません
- ・先着順にて受付し、定員になり次第受付を終了いたします

【受付について】

・整理券の返送をもってお知らせいたします

【会場について】

- ・事前にご応募いただいた方を優先して入場のご案内をいたします
- ・公演会場は畳敷きのため椅子はご利用いただけません
- ・開場時間は17:00を予定しています

【その他】

- ・当日の入場には、整理券が必要となります。再発行は出来ませんので、保管には十分注意して下さい
- ・やむを得ない事情により、内容が変更又は中止となる場合があります

www.senjuji.or.jp

高田本山

津市一身田町2819

TEL 059-232-4171

高田本山



三重県津市一身田町

2819

真宗高田派本山専修寺

お釈迦さまの生誕を祝う四月八日に本山では釈迦三尊法会として山門上に登っていただいてお参りしていただけますが、「はなまつり」はこの日と前後して各地で開催されます。

本寺では 四月七日

関東別院では 三月二十三日に執り行われます。お近くのかたは是非お参りください。

また、本山では四月二十一日に、こどものはなまつりとして催されます。